

■ 概況

10/4~10/10のNYMEX・WTIは、73.17~74.96ドルの範囲で推移した。

10月11日は、世界同時株安による経済の先行き不安・投資家のリスク回避姿勢が高まり、また、一日遅れの米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で原油在庫の市場予想を大きく上回る3週間連続の積み増しの報告があり、さらに、この日発表されたOPEC月報が新興国の経済減速を理由に2019年の需要見通しを下方修正したことから、大幅反落した。11月限終値は前日比2.20ドル安の70.97ドルだった。

週末12日は、世界的な株安連鎖に歯止めがかかり投資家心理が改善、原油先物にも買戻しが入り反発した。ただ、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報は現時点で十分に供給されているとする一方で2018~19年の世界需要見通しを下方修正、さらに、ペーカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数は869基(前週比8基増)と4週ぶりに増加に転じるなど、需給緩和感が上値を抑えた。11月限終値は前日比0.37ドル高の71.34ドル。

週明け15日は、トルコにおけるサウジ政府に批判的な記者ジャマル・カシヨギ氏の殺害疑惑をめぐる米サ対立への警戒感から、続伸した。対ユーロでのドル安の進行、最近の安値拾いの買いも続伸を助けたが、需給緩和や世界的株安への警戒感も根強く、上値を抑えた。11月限終値は前週末比0.44ドル高の71.78ドル。

16日は、イランの10月前半の原油輸出量が日量150万バレルと4月時点の同250万バレルから減少したとのロイター報道、ジャーナリスト殺害疑惑をめぐるサウジと欧米諸国の対

立の深刻化を受けて、3営業日続伸した。11月限終値は前日比0.14ドル高の71.92ドル。

17日は、EIA米国在庫週報の予想を上回る積み増しの報告、米国株式市場の下落、ドル高・ユーロ安の進行などを受けて、売りが先行、4営業日ぶりに大幅反落し、9月18日以来約1ヶ月ぶりに70ドルを割り込んだ。11月限終値は前日比2.17ドル安の69.75ドル。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週82.90~84.10ドルの範囲で推移した。10月11日80.40ドル、12日79.80ドル、15日79.60ドル、16日79.20ドル、17日80.20ドルで推移した。

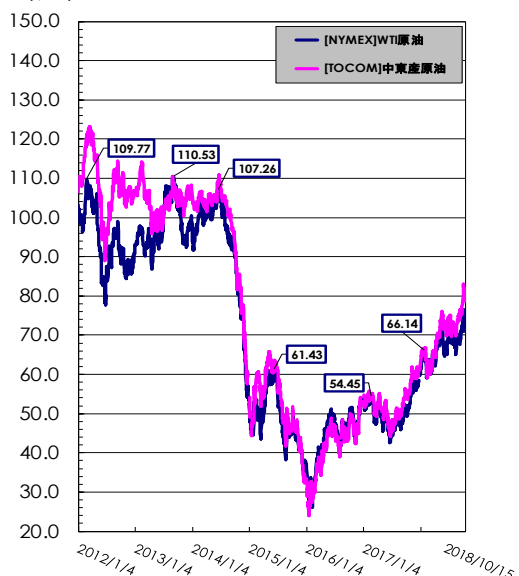
為替は、前週112.97~114.42円の範囲で推移した。10月11日112.36円、12日112.19円、15日112.03円、16日111.89円、17日112.41ドルで推移した。

財務省が18日発表した貿易統計(速報・旬間)によると、9月下旬の原油輸入平均CIF価格は、53,195円/klで、前旬比15円安、ドル建てでは75.86ドルで前旬比0.22ドル安。為替レートは1ドル/111.48円だった。また、同日発表の貿易統計(速報・月間)によると、9月の原油輸入平均CIF価格は、53,136円/klで、前旬比738円安、ドル建てでは76.02ドルで前旬比0.92ドル安。為替レートは1ドル/111.13円だった。

主要元売会社の10月第3週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油が2.0~2.5円の値上げ、灯油が全社2.5円の値上げとなった。原油価格は大きく値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは大きく値上がりとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/7 ~ 10/13	2,680 ▼ -139	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	68.4 ▼ -3.6	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/13	12,298 ▲ 1,033	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/15	78.65 ▼ -3.30	▲ 23.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/15	71.78 ▼ -2.51	▲ 19.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	75.86 ▼ -0.22	▲ 24.35
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	53,195 ▼ -15	▲ 17,722
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.48 ▼ -0.30	▼ -2.00
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/15	113.03 ▲ 0.94	▲ 0.05

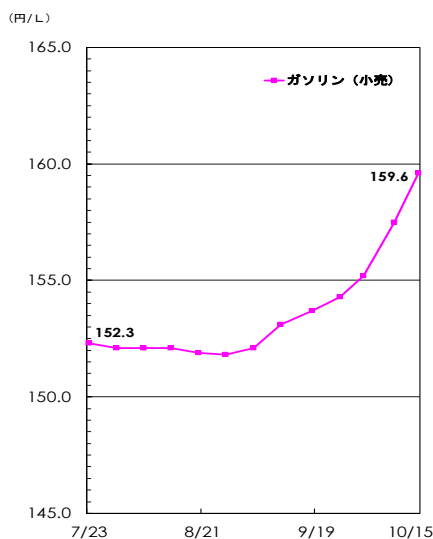
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/7 ~ 10/13	925 ▲ 151	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	863 ▼ -54	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -31	▼ -	
	在庫	10/13	1,513 ▲ 62	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/9 ~ 10/15	75.4 ▲ 0.8	▲ 21.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/9 ~ 10/15	73.6 ▼ -1.7	▲ 19.6
		(TOCOM/中部)	10/15	73.5 ▼ -2.7	▲ 19.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/15	159.6 ▲ 2.1	▲ 24.1	

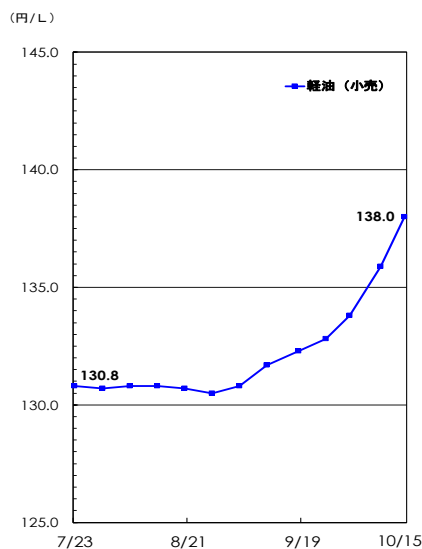
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

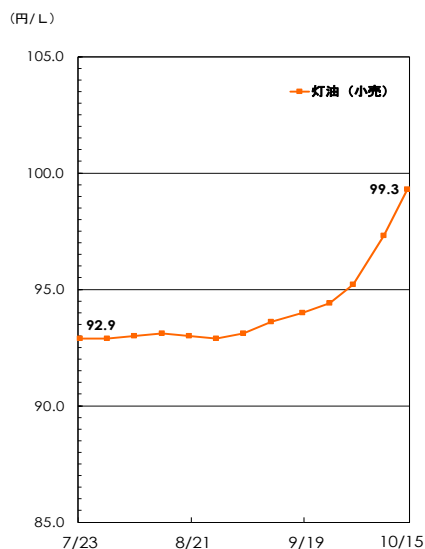
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/7 ~ 10/13	650 ▲ 1	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	603 ▼ -80	▲ -	
	輸出	"	1 ▼ -69	▲ -	
	在庫	10/13	1,550 ▲ 47	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/9 ~ 10/15	76.7 ▲ 1.8	▲ 23.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/9 ~ 10/15	74.9 ▲ 0.5	▲ 24.9
		(TOCOM/中部)	10/15	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/15	138.0 ▲ 2.1	▲ 24.3	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/7 ~ 10/13	147 ▼ -213	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	108 ▼ -173	▼ -	
	輸出	"	49 ▲ 49	▲ -	
	在庫	10/13	2,589 ▼ -10	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/9 ~ 10/15	76.5 ▲ 1.6	▲ 21.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/9 ~ 10/15	75.3 ▼ -2.1	▲ 21.1
		(TOCOM/中部)	10/15	76.0 ▼ -1.5	▲ 20.9
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/15	99.3 ▲ 2.0	▲ 21.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月17日のNYMEX市場WTI原油は、米国株式の下落を受けて、景気の先行き不安、投資家のリスク回避による売りに加え、外国為替市場におけるドル高・ユーロ安の進行、さらに、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、ガソリン・中間溜分の在庫は予想を上回る取り崩しがあったものの、国内原油在庫が前週比650万バレル増と、市場予想(同220万バレル増)を大きく上回り、4週連続で積み増しになったことから売られ、4営業日ぶりに大幅反落した。11月限終値は前日比2.17ドル安の69.75ドル、12月限の終値は

前日比2.06ドル安の69.70ドルだった。

EIAによると、10月15日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.4セント値下がりの1ガロン2.879ドル(85.9円/ℓ)、ディーゼルは前週比0.9セント値上がりの3.394ドル(101.2円/ℓ)となった。ガソリンは6週ぶりの値下がり、ディーゼルは8週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年10月7日～10月13日に休止したトッパー能力は74.3万バレル/日で、前週に対して16.4万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は268.0万klと、前週に比べ13.9万kl減少。前年に対しては49.8万klの減少。トッパー稼働率は68.4%と前週に対して3.6ポイントの減少、前年に対しては12.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べて灯油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/19.5%増、ジェット/51.3%増、灯油/59.2%減、軽油/0.2%増、A重油/9.1%増、C重油/23.2%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比7.1万kl減)。軽油の輸出は0.1万kl(前週比6.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は86.3万kl(対前週5.9%減)と前週比で2週振りで減少となり、6週連続で100万klを下回った。ジェット3.8万kl(対前週38.5%増)、灯油10.8万kl(対前週61.7%減)、軽油60.3万kl(対前

週11.8%減)、A重油12.6万kl(対前週30.4%減)、C重油13.6万kl(対前週23.8%減)。

(単位：千KL)

	今週 (10/7～10/13)	前週 (9/30～10/6)	前週比
ガソリン	863	917	▼ -54 (-6%)
ジェット燃料	38	27	▲ 11 (41%)
灯油	108	281	▼ -173 (-62%)
軽油	603	683	▼ -80 (-12%)
A重油	126	181	▼ -55 (-30%)
C重油	136	178	▼ -42 (-24%)
合計	1,874	2,267	▼ -393 (-17%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月13日時点の在庫は、灯油、C重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは151.3万kl、前週差6.2万kl増。前年に対しては18.1万kl少ない。

灯油は258.9万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては13.2万kl少ない。

軽油は155.0万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては10.4万kl多い。

A重油は65.9万kl、前週差0.1万kl増。前年に対しては7.1万kl少ない。

C重油は206.0万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては1.4万kl多い。

(単位：千KL)

	今週 (10/13)	前週 (10/6)	前週比
ガソリン	1,513	1,451	▲ 62 (4%)
ジェット燃料	964	908	▲ 56 (6%)
灯油	2,589	2,599	▼ -10 (-0%)
軽油	1,550	1,503	▲ 47 (3%)
A重油	659	658	▲ 1 (0%)
C重油	2,060	2,077	▼ -17 (-1%)
合計	9,335	9,196	▲ 139 (1.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月9日から10月15日の原油価格は前週対比で大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン128～130円台で値上がり後大きく値下がり、軽油75～77円台で大きく値上がり後値下がり、灯油75～77円台で大きく値上がり後値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン130～131円台で

値上がり後大きく値下がり、軽油76～78円台で値上がり後値下がり、灯油73～76円台で値上がり後値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン126～128円台で大きく値下がり後わずかに回復、軽油74～75円台で値下がり、灯油74～76円台で大きく値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、全社2.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、軽油は全取引で値上がりしたものの、ガソリン・灯油は取引によって値上がり、値下がりに分かれた。

10月第4週(10月18日～10月24日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月9日～10月15日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円の値上がり、灯油は1.6円の値上がり、軽油も1.8円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.9円の値上がり、灯油は2.1円の値下がり、軽油は1.0円の値上がりだった。

先物価格は、ガソリンが1.7円の値下がり、灯油も2.1円の値下がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替も円高で、原油コストは大きく値下がりした。

10月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも2.5円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

(陸上ローリー4地区平均)	今週 (10/9～10/15)	前週 (10/2～10/8)	前週比
レギュラー	75.4	74.6	▲ 0.8
灯油	76.5	74.9	▲ 1.6
軽油	76.7	74.9	▲ 1.8

(TOCOM) (単位: 円/%)

(期近物/終値) [平均]	今週 (10/9～10/15)	前週 (10/2～10/8)	前週比
レギュラー	73.6	75.3	▼ -1.7
灯油	75.3	77.4	▼ -2.1
軽油	74.9	74.4	▲ 0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/9～10/15実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.8	▼ -1.7	▼ -0.5
灯油	▲ 1.6	▼ -2.1	▼ -0.3
軽油	▲ 1.8	▲ 0.5	▲ 1.1
A重油	▲ 1.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月15日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比2.1円高の159.6円、軽油も同2.1円高の138.0円、灯油は同2.0円高の99.3円(18%ベースでは36円高の1,787円)だった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油も7週連続の値上がりで、ガソリンは3年11ヶ月ぶりの高値水準、5月28日以来21週連続で150円を上回った。都道府県別に、ガソリンの値上がりは46都道府県、横ばいは高知県で、値下がりはない。全国最安値は、埼玉県の155.0円(前週比3.0円高)、次が、千葉県(同2.0円高)の155.8円、最高値は長崎県の167.5円(同2.0円高)で、あった。最も値上がり

したのは、4.3円高の神奈川県(159.7円)、横ばいは高知県(159.0円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、2.5円の値下げとなった。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりした。次週(10月22日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がりが予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/15)	前週 (10/9)	前週比	直近高値
レギュラー	159.6	157.5	▲ 2.1	08/8/4 185.1
灯油	99.3	97.3	▲ 2.0	08/8/11 132.1
軽油	138.0	135.9	▲ 2.1	08/8/4 167.4

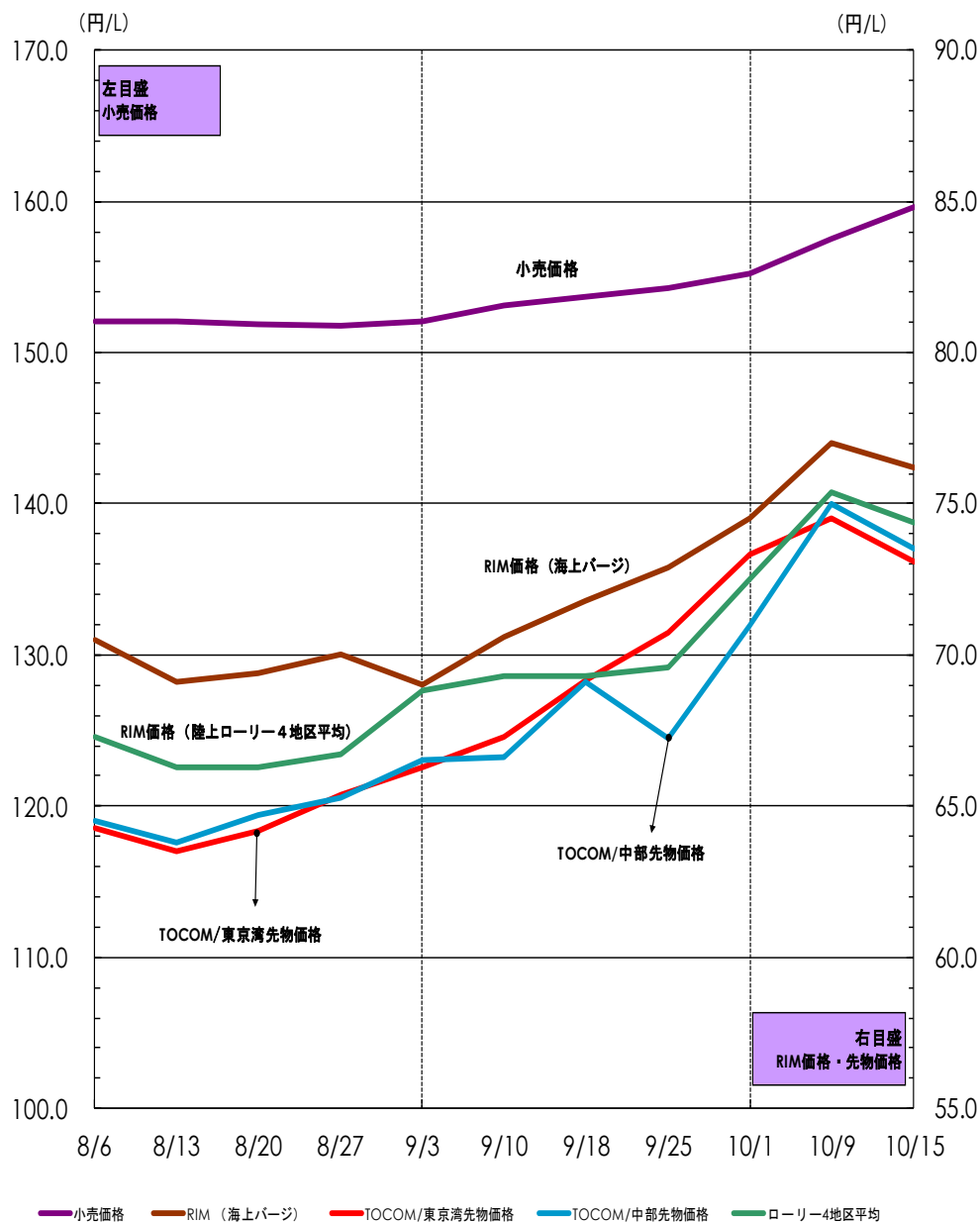
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/8/6 ~ 2018/10/15)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第28号)の公表は、10/26(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在)は、7月31日(火)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。